

31 京坂信徒代表列聖請願書（原文日本語現存、パストラーナ文書館蔵）海老沢有道、『キリシタン研究』  
第8輯、（列聖百年記念）吉川弘文館、1963年3月より

以<sup>から</sup>雅良佐<sup>（聖）</sup>、おさんちたあてに奉<sup>敬</sup>拳愚札。右の一通ハ日本都にて、さんふらんしすこの御門派を馳走仕  
〔る〕かすゞのきりしたん、不省憚、謹而言上仕委趣、御主<sup>イエス・キリスト</sup>せずきりしと御出世以来千五百九十六年めに、  
さんふらんしすこの伴天連六人、同日本人廿人、まるちりに御なり候。其時の日本のあるしの各をハ大閤  
〔ママ〕と申候。然るに彼伴天連、ふらい平とろはうちいたし、よき御作業、よき御鏡を以て御主の御法  
をひろめ玉へハ、いよゝゑけれしや繁昌いたし、同もろゝのせんちよ教人、きりしたんになり候へハ、太閤被聞召、  
我かきらいの法をひろむる間、成敗仕る旨を被仰出。  
則伴天連六人、同日本人廿人相そへ、からめとり、楼〔籠〕者となし、翼〔翌〕日、日本京の辻にて左の  
耳をそぎ、車八りやうにて町々を渡し申候。廿六人の人々は、いよゝ悦を以てかんたうるをうたい、  
せんちよに御談儀なされ候へハ、見る人、目を驚し、きく者耳をすます有さま。奉行の者共もあきれたる  
鉢にて御座候。其時、車のさきにもたせられ候制札の書付、伴天連門戸〔徒〕の事、先年かたく御停止被  
成供処に、此伴天連、呂宋よりの使とかうし令渡海、我きらいの法をひろむる間、門戸〔徒〕に成り候者  
共、廿人相そへ、ミせしめのため長崎においてはた物にのせ可申候と書付申供。此ふた〔札〕の面を見、  
もろゝのきりしたん、扱々あにまの悦のふたかなと、各いさみ申候。明れハ大坂、堺を渡し、長崎におい  
てはた物にかけ申候。是を見きく人々、真に御あるしせずきりしとのひいですに對し、御命を拳〔げ〕玉  
ふ事、よき御鏡、よき談儀かなとおもひとり、ころひ〔転び〕のきりしたんハ立あかり、よはきはつよく  
なり、つよきハなを又善をかゝるまるちりのみちならてハと望まぬきりしたんハ御座なく供。然者彼廿六  
人の人々<sup>海教者連</sup>に御なり候御上は、おかミ〔拜〕申へきと存候へハ、我等か伴天連被仰候は、いまた  
はつはさまより御ゆるしなく候間、おかむ事ならざるよし被仰候ニよつて、もろゝのきりしたん、  
まるちり乃真を見付、かほとまで忠節を尽し、てうすに對し一命をはたし玉ふ人人を貴まぬ事を、かなし  
ミなけきて、御<sup>わびごと</sup>佗言を申あけたてまつる。あわれ、まるちりの衆をおかむやうに、御ゆるしをくたされ、  
こよミニも御いれなされ、一世かいにひろまり、万民のまへにて、とりおこなわせらるゝやうにと望ミ奉  
り候。其子細は、此御さため御座候ハゝ、日本国中、上下のきりしたん、<sup>海教者連</sup>のしゆ〔衆〕の御ほま  
れを見きゝ、あちわふにおいては、いかなる悪人もひいですつよく罷成り、以来さまたけ〔妨〕御座候共、  
たれかハてうすに對し命をおしむ人御座あるべきや。是大なるきりしたんたあてのたよりに罷成ると存候。  
一は、  
はつはさまの御息災をのそミ、又ハ我等以下のくりき〔功力〕のために、てうすを奉頼、いつもおらしよ  
仕候。

御出世以来千六百

慶長八年

十二月廿五日〔1604年1月26日〕

狩野源助	平波路（花押印）	Pedro
成川清六	清寿安（同）	San Juan
小川弥右衛門尉	弁通雍（同）	Ventura
池上与右衛門尉	豊明（同）	Thome
真山一雲	寿安（花押印）	Juan
堀田無安	平波路（同）	Pedro
秋田	老慶（同）	Roque
霧岡了雪	免長留（同）	Melchior
御手洗清安	ゑすてあん	Esteban
鈴木藤七	路連祚（同）	Lorenzo
池上勝左衛門尉	寿安（同）	Juan
横尾七右衛門尉	理安（同）	Leon